

育教之兒幼



號二第 號二月 卷三十四第

東京女子高等師範學校內會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 〔五版〕

改訂系統的保育案の實際

定價 金壹圓參拾錢 送料 金 八 錢

初版以來廣く参考の資料させられた本書は、時局下幼兒保育の再認識、特に國民學校の新制に對する用意の必要から到底舊版のまゝに止まるこを許されなくなりました。全體に亘る改訂と増補を以て茲に此の新版を供する次第であります。

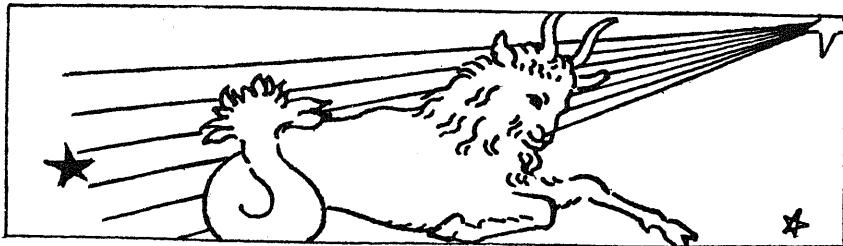
日本幼稚園協會編

幼 稚 園 唱 歌 選 集 第 二 輯

B 列四號二八頁
一ヶ月 定價 金 參 拾 五 錢 送料 金 八 圓
一年 金 四 圓 貳 拾 錢 送料 共

六六二七一京東替振 會協幼稚園本日

五三塙大・川石小・京東
内園幼稚師附高女京東



號二第一卷幼兒の教育

——(次) 目——

明治天皇御製謹誦

(一)

三月の保育

生活訓練

倉橋 懿 三(二)

自由遊戲

上遠文子(三)

遊 戲

古澤 靜子(五)

觀 察

清水光子(七)

手 技

志村 貞子(八)

誘導保育

及川 ふみ(十)

戰時下の幼兒の身體的缺陷とその補救法に就て

柴田みさり(三)

體育遊びに就て

中隈 春子(七)

保育雑感

附屬幼稚園(三)

母の保姆

(三)

お繪かき雑感

(三)

繩 跳

古澤 靜子(毛)

講習上 児童心理學(第十一講)

牛島 義友(三〇)

幼兒の母

(三)

戰時家庭の教育—幼稚園から—氣を強くするには(倉橋 懿三)

日曜日の子ども(及川ふみ)—國民學校への心準備(菊池ふじの)

生徒募集

一、募集人員

一百名

二、出願期限

三月末日迄

無試験検定ノ特典アリ

規則書入用ノ方ハ四錢切手封入申込マレタシ

東京市杉並區高圓寺三ノ二九八

聖心學園内(電話中野一二四八四)

省線高圓寺驛 青バス 市電高圓寺三丁目下車

東京保姆專修學校

世の中のことまだしらぬうなる子も時にあひたる遊をぞする

明治三十八年の御製である。その「時にあひたる遊」を見そなはせられたのが、さういふ遊であつたかは、あらためて考ふるまでもない。今日の子ぎもの遊と同じく、戦鬪遊戯であつた。たゞ日露戦争當時と、今日の大東亜戦争下と、異なるところが多い。戦車、飛行機、爆弾投下、落下傘、航空母艦、特殊潜航艇それからまた、防空演習、防空壕ごつこ。思へば、子ぎもの「いくさごつこ」も、大層な變り方であるが、「時」にあへる點に於ては同じである。御製はまことに今日の御製か、謹誦せられる位である。

御製の御こゝろを、廣く解し奉れば、兒童遊戯の一般の特質、兒童心理の一つのあらはれを、御詠あそばされたものである。しかし、狭く解し奉ることを御許したい。されば、子ぎもさへその遊に、國の大事を反映してゐることを、御感深く詠ぜさせ給ふてあるのでなからうか。

畏れ多い申しやうの極みであるが、當時にあつて、天皇の御心は、對露戦争のことを見て充ちてゐらせられた。即ち、世俗の言葉ですれば、見るもの聞くものゝ一切、事毎に時局に結びついて、御感あらせられたと拜し奉る。ふと御目にさまつた子ぎもの遊に、おゝこのうなる子らまでがこ、この御製になつたのではあるまいか。

御製の中に、この他にも子ぎもの遊を御題させられたものがある。子ぎもの遊の、あの生活詩そのまゝを、美しき詩そのものとして詠せさせ給ふた、有り難い御製のいくつかを拜する。しかも、この御製では、それと同時に、幼兒は幼兒のまゝにもつ國事への關心を、御心の中にこめさせられたことではあるまいか。少くもわれらは、「世の中のことまだしらぬ」ながら、國の時局の重き大きさは、はつきりこ心に感じてゐる。幼兒等を、この御製の謹誦によつて、あらためて見なほさせていたゞくものである。

生 活 訓 練

三月の保育

倉 橋 惣 三

保育終了式。

三月は、保育修了といふ、幼児にとって大きな時である。勿論保育は一日々であり、又、三月から四月へ、すらへと幼稚園生活が終る譯である。しかし、幼児にとって、幼稚園といふ一つの教育期間を終るといふことの、その區切りをはつきり感じさせることは、教育的意義をもつものである。謂はゞ、生活訓練の一つの大きな事項である。

この生活訓練には、種々の貴重な感じが含まれてゐる。(一)生活の一と區切りを感じるといふこと。(二)先生方への感謝といふこと。(三)友達との別れといふこと。(四)次の新生活への發足といふこと。學校の卒業に當つては、年齢に應じて、これら以外のいろいろの反省回想といつたこともある。幼児には、そう多くのことはない。又、それらのことだけにして、極めてあつさりしてゐる。しかし、幼いながらに、これらの感じはあるのである。幼児のこれらを感じて應じて、保育修了式が行はれる。その式

次第はまち～～であつて一定してゐない。式として相當嚴なものもあり、式らしくないものもある。わざと式らしくないところに幼稚園らしさがあるといふのも、一應の考へ方で、餘りに形式的で、幼稚園の式か中學校の式か分らぬといふやうなに對する反対の極端でもある。しかし、保育修了の喜の行事といふだけではなく、一つの生活訓練で、これによつて、一つの繋けをしてゐるのであるといふ時、幼稚園は幼稚園なりに、式の形式を行ふべきである。殊に、形式感といつたものが、だん～出で来る年齢として、それが却つて保育修了幼児への自然でもある。國民儀禮も、保育終了證書授與も、園長式辭も、幼兒總代謝辭も、無くては、もの足りない年齢であり、それが立派に出來る年齢でもある。

たゞ、形を一應きちんとするとして、その内容に於ては、幼稚園としての特色がなくてはなるまい。保育終了證書授與などが、しつかり行儀正しくといふのは素よりそうでなくてはならぬが、式辭、謝辭に於て、それは形に盛られる心であるから、幼稚園らしさを離れてはならない。それを誤り、心ないことを言つたり言はせたりしては、空な形式になる。形式は形式で、いる時にはいる。内容によつて、空形式になるのはいけない。一體、上級學校の場合などでも、卒業式に於て、今までの教育にない新らしい教訓などがある譯ではない。そういうことは、卒業に臨んでといひながら、式とは別に、その前に、〇〇と説示せられる筈のことである。即ち、式としては、卒業者が既に心に一ぱいに持つてゐる感想と覺悟とを、それを強めるのが主である。幼稚園の場合も同じで、幼児は自分達の今日の心を、園長先生に言つて頂くのが有

り難いのである。自分で言ひあらはせない心持ちを、親愛の言葉で言つて貰ふのが嬉しいのである。

幼児の謝辞は殊に簡単がいゝ。大人のやうな言葉を教へ込んで、言はせるのはよくない。殊に、別れを悲しむといつたやうの言葉を言はせるのは、そうして來賓席の婦人達を泣かせるやうなことは、嚴禁である。保育修了式全體を通じても、感傷は禁物である。式は式として、その前後を以て、先生との個々的な親愛の言葉は、最も大切である。殊に子どもの喜びを喜んでやる先生の態度こそ、その日の花である。又修了は幼児であるが、此の日、親達殊に母親のためにも、意義ある日にしたい。ところで、かうした喜びの日、殊に教育上の喜びの日に於て、なぜ喜ばしいかを語るに就て注意を要することがある。どうかすると、かういふ時に個人主義的の言葉が出やすいからである。勿論、その子のため、その家のため、目出度い日に相違なく、その心もちを拒けるのでもない。しかし、かういふ時にこそ、國の意識が強く出なければならない。此の喜びも國のお蔭であることを、そして此の喜びも、國のためであることを、しつかり明らかにしなければならぬ。殊に、之れから進む國民學校の本旨に基いて、そこへ入學するのは自分のために國の爲であることを明らかにし、その爲に幼稚園を出したことが、國の爲であつたことを、その日には明らかに出来るのである。幼児に對して、そうであると共に、否、それ以上に強く、親に此の意識をもたせなければならぬ。此日を母親に意義あらしめたいと言つたのは、此の意味である。

結び・駄けられた子。

生活訓練一ヶ年。素より不充分な説き方であつたし、殊に、事項に就て偏つてゐたかとも心配する。しかし、駄けは個々の駄けで終始するものでなく、どこの點からでも、全體を駄けでゐる譯である。幼稚園の駄けも、個々の事項に就て、どれだけ徹底完成したかはなか／＼むつかしい。たゞ、全面的に「駄けられた子」であつてほしいのである。その子の性格そのものが駄けられた性格であり、従つて、之れからも、更に高い駄けを正しく受け得る性格であつてほしいのである。先生方の此點の御苦勞を謝し、駄けられた幼児達の幸福を思つて、此の稿を終る。

自由遊戯

上遠文子

桃のお花も咲きはじめました。ふつくらした桃の蕾にも春の感触を味ひます。野に山に小さい芽が顔を出し始め子供達もぐんぐんと伸びます。野に山に小さい芽が顔を出し始め子供達もぐんぐんと伸びます。

開戦ごっこ 人數が多い程面白い遊びです。二手に分れ、それをお庭の木に陣をきめて陣なります。「開戦!」といふ兩軍の勝敗で兩軍互ひに攻めよせます。どんといつて敵軍とたると互ひにじやんけんして、負けたら敵軍にとらはれる。又その場合負けたら鬼になりつかまへ、陣に逃げ込むと助かる。即ちその間につかまらぬ様にすばやく逃げ、捕まれば捕虜になるといふのもよろしいのです。味方が捕虜になつた場合、直ちに助けに出かけるのであるが、敵は捕虜をとられまいと、防備おさ／＼おこたりま

せんから、種々と方向を工夫したり、策戦を練つて助けにゆきます。此處に言ふにいはれぬ面白味があるので私達でも目の色をかへてしまひます。唯捕虜の手又は體に觸れゝば助かつた事になり陣にもどります。捕虜がだん／＼増えて、みんな捕虜になつてしまふと負けになります。その他、後捕りといつて背中をぼんとたかれるどその人は、じやんけんなしで捕虜になつてしまふといふ規則も入れますと益々遊びに緊張して、うか／＼油断してゐられなくなり一段と愉快です。陣地を守るもの、攻撃にゆくもの、味方を助けにゆくもの、斥候にゆくも、それ／＼が協力して敵にあたらぬと、何れか一人でも油断してゐますとすぐ形勢が傾いて來ます。幼児の協力性を養ふによい遊びの一つであります。

まだ／＼と考へておりましたのに、もうこの自由遊戯も一年の長い期間續けた事になりました。保育案に沿つて、普段我々が幼児と共にしてゐる事を一通り考へてみました。どんなと楽しい遊びを案出して幼児の生活をより楽しく、より豊富にしてあげねばならぬわけです。がその一步前に今まで訓れ親しんで來た遊びをある違ふ方法で違ふ方面より入るといふ事も面白い事ではないかしらと考へてみました。また、私達の目の前にゐる幼児達は、これから日本の大東亜を背負つて立ち、あの忠勇なる皇軍の後を受継ぐ、大事な少國民なる事は云ふまでもありません。と同時にその少國民を私達は、重大な任務を遂行出来る立派な少國民に、今の時より鍛成せねばならぬと考へねばなりません。日頃の鍛成が大いに花を咲かせた皇軍將士の事を詩上を通して耳

にいたします。小さい幼児達にはそれだけの鍛成をし、充分に基盤をしつかりと、作りあげておきたいものであるといふ理想も戰時下幼稚園保育の一つの目的ではないでせうか。

優美な服装に、童歌にあはせて、遊びたわむれてゐた幼児達を、その自由遊戯に折込みしつかりと體を鍛成したいものであります。玉も磨けば光輝を生じます。鍛成されぬ幼児、鍛成された幼児が、それ／＼生長し召された時、充分に御奉公出来るのも後者の方が大いにはれると思ひます。將來立派に御奉公出来る幼児を作りあげる事こそ今私の私達の任務の第一であると考へ、此處に自由遊戯も一考したいと思ひます。お話を前後致しましたがもう一つ考へてみたい事は、自由遊戯に入らぬ幼児をどうしたらよいかといふ事であります。

一、入園當初、團體生活に入れなく、と同時に自由遊戯にも入れぬ子供。

二、幼稚園生活になれて來てもお友達と遊べず皆のする事を

三、遊ぶ事は好むがお友達を好み先生とだけで遊ぶのを好みの子供。

大體大きくなるとこの種の子供です。然しこれは私のぶつかつた子供で又、他の幼稚園には他の種の御子さんも多々ある事と存じますから、私の経験記録とでもして御讀みいたゞければ幸です。

先づ「一」のお子さんは御家でお友達もなく静かに遊んでゐたお子さんが幼稚園に来てびっくりしお母様の袖につかまつて離れぬ

様なお子さんに多い傾向です。こういふ方は比較的やり易く、馴れればどんどん遊べるお子さんですから、私共は早く遊びの面白さを知らせ馴れさせる様につとめる事が大切です。入園最初ですから、家庭の延長の様な自由遊戯を考へて導く事です。

「二」の場合。これには、(1)大人っぽくて無邪氣に遊ばぬ子供、(2)気が弱くお友達においてきぼりをさせられる子供。(3)用心深く、自信のつくまでは遊ばぬ子供。とあります。(1)のお子さんは年寄育ち又大人の間の育ちのお子さんに多く、そんな事してもつまらない、馬鹿くさい、といふ氣持からで、かういふお子さんは一般に智能が進んでゐますから、種々理屈をつけて自分でその遊びをつまらなくしてゐるのであります。ですから、淡い子供だましの遊びでなく頭も使ふ高級な遊びを好むわけです。先づ體力の遊びから入つてゆくのはどうでせう。それも他の人におどらぬそのお子さん出来るのは遊びでないと、負ける事に不快を感じて嫌になりますから。そしてお友達との親しみを作ります、と日に々自由遊戯へ自分から飛込めるお子さんになります。(2)のお子さんは先生が手を取り、お友達の仲間に入れてあける様に心かける事により解決がつきせう。(3)の場合。かういふお子さんは、「遊びませう」と誘導的に種々手をかへ、品をかへても頑強に嫌とはねのげられます。自分がもうよしと見通しがつくまでは仲々出馬しませんからまあ時の來るのを待つのです。しかし、いつも、誘ふ事を忘れてはなりません。

「三」の場合。は我儘から來る事ですが、お友達が自分の自由にならぬので遊ばないので、先生を獨占したい氣持からとあります。

前者は、先生がのまれてはいけませんから、お友達と團體的に遊ぶ機会を多く作り、その快感を味はせ、お友達をしおいた場合などはきびしい位、いさめねばなりません。後者は、先生と二人で遊んでゐる所へお友達でも入つてくると、すこづといなくなつてしまひます。さういふお子さんは、遊びに充分興味を持たせ、お友達が入つた事により興味を薄くせたりするのにはいけなく、却つて面白い事を味はせる様指導者が導けば次第になほると思ひます。かう見ますと、全然遊びの嫌ひなお子さんはない筈です。ですから、ぼんやりとお部屋の出口に立つてゐるお子さんを、はやく楽しい幼児の自由遊戯に入らせ、協力した樂しみ、協力したよろこびも味はせる様心がけたいものであります。

遊 戲

古 潤 静 子

音楽と結び、體力の基調となり、その中に個人として全體として繋がられなければならないものを持つた遊戯でした。時節にのぞんで、「春」「たんぽぽ」「櫻のソング」を考へてみませう」と誘導的に種々手をかへ、品をかへても頑強に嫌とはねのげられます。自分がもうよしと見通しがつくまでは仲々出馬しませんからまあ時の來るのを待つのです。しかし、いつも、誘ふ事を忘れてはなりません。

春 日本幼稚園協会發行、最新作曲幼稚園唱歌集所載。
「前奏」 そのまゝ聞く。

一 節

「ほか／＼春がやつて來た」全生連手して二呼間に一步づゝ圓心に向つて進み、「やつて來た」で、その場で膝を高くあげ足踏みをし、「た」の時には、兩足を揃へてとまる。

「可愛い桃がふくらんで」。「可愛い桃が」で兩手を横から前にもつてゆき、兩掌をふくらませて合はせ、「ふくらんで」で兩手を離して體側に下しながら、互に、隣生の肩にかけ、「で」の時にそのまま、一同腰を下す。

「に／＼笑顔で云ひました」 しゃがんで兩手を肩にかけたまま、「に／＼」と一呼間に二回づゝ頭を左右に振る。

「もう春ですよ」。二呼間で肩にかけた手を離し、左手を口もとにつけ左生の方を向いてお話をする様な姿勢をとり、次の二呼間にその手を下して正面を向く。

「春ですよ」 同様二呼間に、右手で右生に向つてお話をする様な姿勢をとり、次の二呼間に正面をむく。

「間奏」前奏の部分を間奏、後奏として用ひ、この時一同立ち上つて連手し、もとの位置に後退する。

二 節

「ほか／＼春がやつてきた」 一節と同動作を行ふ。

「優しい風がそよ／＼と」 圓心に進んだ位置でとまり、兩手を上舉して風の様に左右に振り「で」の時に兩手を下して互に隣生の肩にかけると同時に一同腰を下してじやがむ。

「小さなお花に云ひました」 一節の「に／＼笑顔で云ひました」と同動作。

「もう春ですよ。春ですよ」 一節と同動作。

「間奏」 一節の終りの様に一同立ち上り、連手して後退する。

三 節

「ほか／＼春がやつて來た」 一節と同動作を行ふ。

「お縁の上でお日様が」 兩臂を曲げて兩手を顔の横にあげ、兩掌をさら／＼と振りながら、各自の廻りを左に一廻りする。そして「が」の時に一、二節と同様、兩手を隣生の肩にかけながら一同腰を下す。

「坊やにそーつと云ひました」 一節の「に／＼笑顔で云ひました」と同じ動作を行ふ。

「もう春ですよ。春ですよ」 一節と同動作。

「後奏」 間奏と同様、連手して後退する。

たんぽぼ 日本幼稚園協会發行、最新作曲幼稚園唱歌集所載。隊形は二人づゝ向き合つて行ふ。

一 節

「唉いた／＼」向き合つたまゝ、二呼間に各自兩手を横から前に出し、兩指を開いたまゝ兩掌を合せてたんぽぼの花を作る。次の二呼間に兩手を體側に下す。

「たんぽぼが」 今の動作をもう一度行ふ。

「黄色のお顔をそつと出して」 再び兩掌を合はせてたんぽぼの花を作り、二呼間に一回づゝ頭を左右に曲げて花の左右から顔をのぞかせ、互に相手を見る。

「こちらを向いてはに／＼と」 兩生共、左足左手を前出し、左足は踵をつけて足尖を上にあげ、左掌を顔前でに／＼と左右

に振る。

「次の八呼間」 手足を交代し、右手右足を前出して同様の動作を行ふ。

「にほひをおくつて笑ひます」。「にほひを送つて」で互に両手をつないで左に一廻りし、「笑ひます」の時にとまつて、向き合つたまゝ互に両掌を七回たゝき合せる。

二 節

「咲いた／＼たんぽぽが」 一節と同動作を行ふ。

「垣根のそばのたんぽぽが」 一節の「黄色のお顔をそつと出しつて」と同じ動作。

「てふ／＼さんをやすませて」 互に左手をつなぎ、右手を伸ばして上下に軽く振りながら、左に一廻りする。

「次の八呼間」 右手に握りかへ、左手を伸ばして上下に軽く振りながら、右に一廻りする。

「二人で仲よく話します」 一節の「にほひをおくつて笑ひます」と同じ動作を行ふ。

「櫻のトンネル」 日本幼稚園協会發行、幼稚園唱歌選集所載。
「櫻のトンネル母様と、くゞつて楽しい幼稚園」 一列圓形を作

り、圓周上任意の二人が左右を向いて向き合ひ、両手をつないでトンネルを作る。そのトンネル生を中心にして圓周を二側に分け、各側共、トンネル生の方をむく。そしてトンネル生の隣生を先頭に、兩側同時に、外側より二列になつてトンネルをくぐり直ぐ進む。トンネル生は、最後につゞく。全生がくぐり終つた時、二列離隊が出来る。

幼稚園も三月の聲をきくといろ／＼な行事が多いからその楽しさに壓倒されて落付いた幼稚園生活がさまたげられない様に氣をつけ度いものである。

芽 北國や山國の雪はまだ深いかも知れないけれど暑さ寒さも彼岸までとやらで春の足音がそこにきこえてゐる三月、木や草の芽が、氣がついて見ると驚く程大きくなつて、あるものは綠色にさへなつてゐる。「こんなに芽が大きくなつてゐるのね」と子どもに知らせてみせる。この木も、あの木もといふ風に、又花壇の草の芽もみる。そして小さいけれど強いかはいゝ芽、これから伸び

「昨日のやうに思へるが」 二列のまゝ向き合つて、各列、互に隣生と連手し、後方に開いて再び一列圓形をつくる。

「もう一年もだちました」。始めの二呼間拍手をして、次の二呼間に、掌を反して両手を擴げると同時に、踵をつけて、足尖を上げ、左足を前出する。この動作を左右の足、交互に四回行ふ。

「明日から大きいお室です」 金生両手を伸ばして肩の高さに上げ、駆足で圓周を左に進む。

「あゝうれしいな」 四呼間、そのまゝ左に駆足で進み、次の四呼間、立ち止つて、その方向に向つて、やゝ體を前傾し三拍手する。

「うれしいな」 今の動作を、右の方向に行ふ。

観察

清 水 光 子

て花になつたり葉になつたり枝になつたりする芽を大事にして、ふんだり、むしつたりしないやうによく注意する。

手品遊び　會といふのも大きさだけれど、子ども達と楽しい集りをする機會の多いこのころ、何か簡単な手品をするのも面白いことであらう、觀察とは言へないかも知れないけれど、不思議な

感じ、究明し度い氣持を起させる機會といふことでは意味があると思ふ。出来るなら種明しのできるもの、簡単な物理化學の應用のやうなものがよいであらう、よく知られてゐる數例をあげると、小さい紙で大きいものを巻くこと(途中を切らないやうに細く長くきつて)ひもつなぎ空徳利から水を出すこと、コップにうつして水の色を變へること、あぶり出し、玉落し(コップを三四個並べ、一枚の紙でふたをしておき一つ一つの上に玉をのせておいて紙のふたを早く抜き取つてコップ銘々に玉を入れること)皿まわし等がある。大人の前でする失敗より子供の前でする失敗の方がいけないからよく念を入れて用意してする事にし度い。

談話

志村貞子

もう三月といふ月を迎へる。吹く風にも日ざしにも樹々の枝にも、どこか春の息吹の感じられる此の頃である。戦ふ祖國の戦ふ國民の人として此の冬の厳しい寒さを、兵隊さんに負けない元氣で樂しく激刺と凌いで來た、否、勝ち抜いてきた頼もしいよい子たちにとつてもこの月を迎へるよろこびは亦格別である。桃のお

節供がある、國民學校へあがる日が近づいてくる。大きい組(年長組)になる日が一日一日と近くなる、三月である。それは子供達にとってお正月を待つ喜びに負けない大きな喜びなのである。

此の月の談話にも先づ「三月節供の話」とある。

二月の半頃から色紙で、或は新聞粘土でいろいろな可愛い、お雛様を皆でたのしく作つて待つお節供、屏風や櫻や橘も、お雛様にあげるおいしさうな菱餅や御馳走もすつかり出来上つた此の頃である。雛祭の故事について先生が一通り知つておかれることは必要であるが、お節供の話としてそれをきかせる必要はない。むしろ次の「花子さんとお節供」のやうに童話として扱つた方がよいと思ふ。たゞ雛祭が日本の昔からの行事である事を、お母様もお祖母様も楽しめられたお祭りであることを、お雛様を作りながら、或はまた飾りながら自然のうちに話してきかせたいものである。「花子さんとお節供」は、倉橋先生が附屬幼稚園の園児たちにお供の集りの時お話しして下さつたお話で幼稚園談話集第二輯にいただくなつてゐる。先生のお話の御聲、子供達の喜ぶ聲、赤い毛糸、典雅なお雛様すべてが忘れられない楽しい集りである。

「冬から春へ」　春を待つ生物、例へば樹の芽、草の芽の童話を創作して生物の春への營み、喜びを、亦それを育む自然の大きな力を話の中へ織込んで聞かせるのもよいであらう。亦子供達と語りあつてみると面白いと思ふ。或子供はお池の氷が薄くなつたといふだらう。風が暖かくなつたといふかもしれない。又或子供はもうすぐ國民學校へあがるといふことに春のよろこびを一ぱいに感じてゐるかもしれない。また雪合戦をしたいなあと冬の遊び

相手を思ひ出す子供もあらう。子供達の心は限りなく豊かである。

「窓ガラスさん」三郎さんに大きな眼と三角のお鼻と圓いお口をかいて頂いた電車の窓ガラスが大喜びでお隣の窓ガラスに電車の中の様子など面白くお話する。その中に小さいお坊ちゃんが乗つて来て「め、め」といひながら折角の顔をめちゃくに消してしまつたのでたゞくお話することが出来なくなつてしまつたといふお話。着想が面白く可愛い、お話である。窓ガラスがみた車中の様子は割合簡単に話されてゐるが、話手の意のあるところによつてこゝにいろいろの内容を與へらる。例へば小父さんがよんではる新聞をのぞいてみると、寒さをものともせず北方を護つていらつしやる兵隊さんの銃をかまへた寫真が出てゐる。あゝ有難いなあ、御苦勞様だなと思つたとか、おばあさんに席をゆづつてあげた坊ちゃんの話とか、別に交通道徳實踐の記録にする必要はないが、かういふ點に於ても窓ガラスの口をかりて話される内容はなかく、有效に子供達に働きかけるやうである。

「櫻村機」片翼飛行の勇名を謳はれた有名な櫻村機の話を童話として創作されたものである。良雄さんがお兄さんと二人で模型飛行機をこしらへて空中戦をして遊んでゐる中に二機が衝突して良雄さんの飛行機は片翼になつてしまふ。良雄さんは櫻村機が敵と戦つてある様子を考へながら、小さな櫻村機を勇ましく飛ばせたといふ筋で、櫻村機の烈々たる攻撃精神とその戦闘状況等が英雄さんをかりて活きくと描き出されてゐる。お話によつて豊かな空想をたのしむ子供達は亦一面、戦といふきびしい現實を素直に受け入れ心を躍らせ勇み立つ。大東亜戦争以來、緒戦からの壯

烈なる戦闘を、また赫々の戦果を話してきかせる時の一々それは多くの場合、童話といふ形式をとる餘裕なく、新聞に報道された〇〇大尉の爆撃行の手記を、或は從軍報道員の報道をそのまま言葉を代へる程度で話して來たのであるが——子供達のぢつと集中して動かない緊張した眼、さうだよくといふ合槌から喜びに抑へられなくて昂る聲等その生きくした共感には此方が胸打たれることしばくであつた。戦ふ子等は誠に逞しく第三の兵隊さんとして育つてゐる。機會ある毎に彼等の先輩の示された美しく尊い精神を彼等に語り傳へることは私共の責務であると信ずると共に、その機會を充分に恵まれた有難い大御代に生きる光榮を思はずにはあられないのである。

「鍵穴のお話」皆が歸つて静かになつた幼稚園のお部屋の中で、そこにあるいろいろな道具が、集つて會をはじめる。大きな黒板さんが司會者になつて「一番小さい方にお話ををして、いたゞきませう」といふ提議で、鍵穴さんのお話を始められる。鍵穴さんの話には子供達に親しい幼稚園の四季の様子が面白く語られてゐるし、まだく續くところを、鼠の出現によつて皆一目散にほとの場所にかへつたのでお話も途中でやめになるといふ結び方も面白く、子供達に共感を以て迎へられる話であらう。子供達の身近かな道具等から取材したかういふ種類のお話は、子供達の眼を身邊のものに向けさせ、それらのものに親しむ心を培ひ、ものを大切に扱ふといふ心持を無理なく自然の間に養ふに大きな力があるやうである。この鍵穴の話もそれくの幼稚園の特色を生かした話にされることが希ましいのである。

以上を以て三月の保育案の談話の概略について記したのであるが、同時に、昨年の三月號に始まつた「毎月の保育」も早や一ヶ月を経たことになりこれを以てこの稿も了るので一言附記させていただきたい。談話は安村先生と私とで交替に受持たせていたゞくことになつてゐたのであるが、先生の種々の御都合の爲に、甚だ内容の乏しい拙稿を數多く掲載していただくなつてしまつた。讀者諸婦の爲、誠に申譯なくこゝに紙上を借りて一言お詫び申上げる次第である。また紙數の都合上、保育案にのせられ談話のすべてをこゝにとりあげて説明し得なかつたことをお許しいただくやうお願ひ申上げる。さんなお話にしても、直接聞き手を對象としてなされる談話に於ては、最初にも記したやうに、先づ第一にその話を自分のものにすることが肝要である。その話への心からなる共感を持つ人が、その話の最もよき語り手であるといへよう。かゝる點からも、談話を既成の童話のみから選ばず、保姆自身が幼児達に話してきかせたいと思ふことを中心として自ら進んでお話を創作され、話されることが希ましい。切に御勉強を祈つて筆を擱く。

年少組では幼児自身でつくるお雛様は「くくく簡単なものであり、又ものによつては保姆の手をかりてする部分も多い」とありますのであらうが、年長組ではお雛様ばかりでなく飾りもの、供物など數の上でも亦個々の製作の上でもやゝ手のかゝるものを作られる様になる。

「くく簡単なお雛様は立雛などを自由畫にかゝせて額式につくる事も一つの方法であるかも知れない。たゞ自由畫として雛をかゝせる時に、お雛様の繪をおかきなさい」と云ふだけではこちらの期待通りにゆく事は少いかも知れない。數日前から保育室などにお雛様の實物や繪などを飾つておいて幼児たちにお雛様を畫く材料の内容を與へておく事を忘れてはならない。又幼稚園内だけではなく家庭や、通園の途中などのおもちゃやの店頭などに容易に見受けられるやうな場合にもお雛様を見る機會を促すことなどの豫備的なことも心掛けておく事である。
自由畫を切りぬかせ、ホールの空箱などを利用して臺紙としてその上に貼り付けて、これに模造紙などで桃の花などをあしらうとも簡単な雛の掛物が出来る。

粘土 雛

新聞粘土でつくる雛も簡単で年少組によい。親王、内裏共に略同じ大きさがよいのであるから大體の型と大きさを決める爲に、おちやのお茶碗などの型を使って作るとよい。頭に銀杏やお豆などを用ひるのもよいから粘土を型からとり出してすぐに柔かい間に粘土の中に銀杏なり豆なりを深くさしこんでおくとよい。充分に陽にかはして色をぬる。

手 技

及 川 ふみ

三月の手技はお雛様の仕事が中心となつて進まれてよい。年少の組と年長の組とではお雛様の製作の上にも自ら區別のあるのは云ふまでもない。

古はがきのおひな様

古はがきを材料としてのおひな様も數々出来る。大體お雛様の胴の形を圓錐型、立方型、丸型などに古はがきで作つて、それに白い畫用紙などで顔をつけるとよい。型はいつれにしても出来るだけ簡単なものがよい。

古端書を臺にして一部分千代紙などあしらつて作ると美しいお雛様が出来る。

古はがきを材料としてお雛様を作る場合は端書の文字が見えない様にクレヨンで色濃くぬつて使ふ事である。

封筒の袋雛

古封筒を利用して袋雛を作ることも出来る。古封筒を縦を二つ切りにして、上の部分も底を糊づけにして、二つの袋にし、模造紙を細く切つて雛模様にしたり、その他の模様を切りぬいて貼りつけて、お雛様の胴にする。顔は畫用紙で別に作つて袋の内にさしこみ頭の部分になるところは、ひだをとつて紐でくる様にす

る。

お雛様の製作は現在、内裏をはじめ屏風、臺、櫻橋、お供へなど一揃に二、三のものには製作の材料としては數々あつて一ヶ月二ヶ月分の手技の材料は豊富すぎるほどにあるのである。たゞ幼児の程度、材料の状態、これに費すことの出来る時間などによつて各その持場持場によつて考へて作るのであるが要するにお雛様の製作といふものは雛祭りを幼児たちに喜ばせ樂しませるといふ事が第一の目的とするのであるから製作に無理のない様に保母の方で心掛けなければならない。製作そのものゝみを考へて幼児た

ちに多くの負擔をかけすぎて、かへつてその製作をいとふ様なことになつては折角手技のよい材料もだいなしになつてしまふのであるから注意しなければならないことである。
たゞこゝに心すべきは作られる雛は形や色は出来るだけ單純なものであつても出来上つたものが上品な趣のあるものを選ぶといふ事についてはこれを指導する先生がその趣味の標準を高くもつたるものである。

誘導保育

菊池ふじの

お花屋さん 長い間寒さに閉ぢ込められて、身も心も固くなつてしまつてゐた身に、春の懶びよつて來た氣配を感じた時の喜びは譬へ様もない程である。殊に、子を持つ者に取つてこの喜びは更に大きい。子供は、昔から云はれてゐるやうに、確に風の子であるに違ひない。けれども、あの立ちのぼるかけらふの中に、崩え初める若芽の中に見る子供等の影は又一入に伸びやかである。嬉しい春、待ちこがれる春、早く來い。

揃て三月にお花屋さんの主題はいとも相應はしい。それに、四月、始めて家を離れて入園して來る年少組の御子さん達への贈り物として、今から花籠を作つておくことは手廻しのよい例として賞められていく。正に「一石二鳥といふべきもの」。何故なら四月新學期早々これだけのものを製作する暇はとても無いし、新入園児には入園のその日から「おみやげ」は上げたいしするからである。

花籠もお花も、古葉書利用が、紙の堅さと言ひ大きさと言ひ至極適當であるが、古葉書とばかり限つたものではない。廣告に來た厚紙を適當の大きさに切つてもよし、身邊にある厚紙のあれこれを利用することもいゝ。

先づ花籠であるが、古葉書の一面を、字が見えなくなるまでに、一色でもよし、配合のいゝ二色でも三色でもいゝ、塗りつぶす。それからそれを横に二ツ折りにして輪の方から八ミリ位の幅に切り込む。輪になつてゐない一方は一センチぐらゐ切らずにおく。これを丸く糊又は絲にてつなぎ合せて花籠にする。

お花は、やはり古葉書に、何でも好きな、そして出来るだけ多くの種類のお花を描かせ、濃く採色させ、切り抜かせる。この時は、お花だけでなく、葉も莢も根ぐらるまで少々長さを取つて描かせることが必要である。これを、前に作つてある花籠の内側に、お花が外を向くやうに貼る。或は、花籠の二枚合つてその中に挿し込んで、糊づけにしていゝ。

一方、お店は、おまゝごと道具の棚とか又はお机を然るべく並べてお店らしく作り置き、出来た花籠を次々にお花屋さんらしく並べる。花籠には、葉書大のものばかりでなく、種々の大きさのものがあると一層面白い。一人の子供に一つといふことではお店が淋し過ぎるから、出来るだけ澤山作るやうにし度い。「お店に飾つて、私達も買ひませうし、又新らしくは入つて来る小さい組の方達にも賣つて上げませう」と言へば、子供達はどんなに喜んで、澤山作るに違ひない。

年度末の休暇には大切に保存して置いて、やがて四月の新學期

になつたら、自分達も賣買し、小さい組へも賣つて上げたら、幼稚園入園の印象として、どんなに嬉しいものが心の底に印象づけられるであらう。

おみやげは、このお花屋さんから紙のお金を出して自分が買った花籠を始めとして、こまゝ、風車、人形など、數へ上げれば嬉しいものばかり。これがうまくいくと、幼稚園に惹きつけ得ることは満點であらう。

期待效果は、年少者への心、手技、觀察、整理、といふやうなことが挙げられる。

繼續作業時間は、學年末の三週間位。

以上で「月々の保育」一ヶ年を終へ、初めての計畫を了する。夫々の受持に於て、夫々の感想があることであらう。この誘導保育に於ては、各地保育會や研究會よりの報告を通覽するに、益々盛に實行せられんとしてゐることが認めらる。たゞ、幼兒數が餘りにも多い爲、保育室の手狹な爲め、或は手不足の爲などにて思ふやうに實行出来ないといふ懸念をよく聞くのであるが、そこをうまく考へて手狭なりと、手不足なりと實施せられんことを念願して櫻筆する。

戦時下的幼児の身體的缺陷と其の対策

東京市幼稚園保育研究保健部

麹町幼稚園 柴田みどり

大東亞戰爭も海に陸に赫々たる戰果を擧げつゝ早第二年目となり今や勝ち抜く爲に總てが戰つてゐる、支那事變始つて以來五星霜、此の長年月に戰争は幼児に何を與へたであらう。幼児の精神に、健康に餘り顯著な惡影響が及ぼされたことは認め難いが、然し戰ひは尙ほ今後にあり、事態は益々急を告げて來た。此際幼児の身體について、備へるところがなくてはならない。營養の缺乏や傳染病の流行は、幼児の生活を必ず脅す事であらうが、是に懼れる事なく、寧ろ是等に打勝つ精神を以て、事に處したならば必ずや今后戰争のもたらす悪影響より救はれ得る事と信する。次に消極的と積極的方面よりその對策を記す。

一、健康診査(ツベルクリン反應検査)

日本は從來結核國とまで云はれる程の高い結核死亡率を有してゐたが、近年結核豫防施設の増加と共に多少ながら、その效果が顯れつゝあつた際、支那事變は勃發したのであ

る。戰争による結核の增加蔓延は當然考へ得る事である即ち田園青少年の都會集注、工場、寄宿舎等の生活環境の變化、勞働力の強化と過勞、手不足の爲の體力劣弱者補充、戰場に於ける發病、感染等原因する處明白である。しかるに幼児は結核に對して抵抗力が弱い、其の上都會は田舎に比較して結核菌に接觸する機會が多いのであるから到底感染から幼児を護る事は出來ないことを考へなくてはならない。元來結核はその發病の原因する處、初感染時の取扱ひ如何に依る云はれてゐる。定期身體検査に於ては唯醫師の聽診器での検査であるから、是の大切な初感染期も無自覺、無症狀の結核も無視してしまふ危険は實に大きいのである。この際幼稚園で毎年一回以上の健康診査法を實施し、結核の豫防、蔓延防止を計ることは現在國家の政策要求に添ひ、實に急務中の急務と信する。

方 法

二、過激な運動を避けしめる。

ホ、栄養の合理的配合をなすこと、脂肪の攝取

五、結核に對する衛生訓練(體)をなすこと。

イ、咳嗽、嚏をする時は人の面に向つて決してしない。口、咳嗽、嚏をする時は必ずハンケチ、手拭ひ、紙を口に當ること。

ハ、日光浴、偏食矯正、正しい睡眠による休養、全身の抵抗力を高めること。

六、要治療結核兒は休園せしめる。

二、傳染病の對策

第一表 東京市學齡前幼兒ツベルクリン
反應陽性率

種別	検査人員 (男 女)	陽性者	%	要治療結
牛込區	1,680	244	14.5	8
品川區	3,657	581	15.9	24
向島區	3,466	498	14.3	15
計 %	8,803	1,323	15.0	47

第二表 郡部就學期幼兒ツベルクリン

反應陽性率

年 齢	男		女		男 女 計 %
	検査 人 員 率	陽 性 者	検査 人 員 率	陽 性 者	
東 京 府	5歳	120	14.1	116	10.3
	6歳	107	11.2	123	14.6
	5歳	132	1.5	106	3.7
	6歳	134	8.2	126	4.8
千葉縣	5歳		3.2—20.		8.0

一、毎學期又は毎年ツベルクリン皮内注射検査を幼稚園に於て實施すること。

二、陰性反應兒(未感染者)は毎期陽性になるまで行ふこと。

三、陽性轉化者(初感染兒)に對しては、

イ、エツクス線診断、ロ、喀痰検査、ハ、赤血球沈降速

度検査を行ふこと。

四、初感染兒に對しては、(取扱方法)

イ、一ヶ年、又は二ヶ年間の攝生養護をなすこと。

ロ、睡眠を充分させること。

ハ、學童に對しては學業の負擔を輕減すること。

一、幼兒期から學童期にかけて、一番種々な傳染病に罹り易いが、治療、看護の資材不足の今日「病氣に罹らない」と云ふ工夫がまづ必要であらぶ、この爲種々な傳染病に対する免疫になる事が賢明な方法である。

イ、種痘 ロ、デフテリ一の豫防注射

二、防注射 ニ、腸チフスの豫防注射又はビリワクチン内服

ホ、赤痢、疫痢のビリワクチン内服 ハ、百日咳の豫防注射

三、手洗ひ、含嗽、衣服の清潔等消極的な方法も體として行ふこと。

二、傳染病の傳染蔓延を防ぐ爲に、早期發見に努め、隔離を嚴重になす、家庭の注意を喚起し、一層公共の精神を以て、放置、隠蔽せぬ様指導すること。

三、手洗ひ、含嗽、衣服の清潔等消極的な方法も體として行ふこと。

三、栄養缺乏の対策

栄養の問題は最も重大且つ深刻であるが、家庭に俟つてころが多い。然し幼稚園でも場合に應じ、實施出来る條件に於て、出来るだけ栄養補給に努すべきである。

方法

一、偏食矯正

お辦當を残さず食べるこゝ、雜食即ち何でも食べるこゝ、家庭に對しては栄養素を損はず且つ合理的配合の調理法を指導すること。

二、味噌汁給與

これは偏食矯正にもなり、栄養補給にも、現在行ひ得る最善な、しかも簡単な方法である。給食に困難な幼稚園は味噌汁だけでならば現在の状態でも實行出来るから是非やらないものである。即ち大豆の含む栄養素植物性蛋白は發育期に於ける幼兒の體蛋白(發育の爲消費する蛋白)を補ふ爲に三食に必要な大切な役目を充分果すのでみそ汁に動物性蛋白(煮干)を入れ、馬鈴薯、青菜、わかれ、芋等を用ふれば尚ほ良い。

三、田園共同炊事の方法も如何かと思ふ。

よく嚼むこゝは分量の不足、栄養の不足の點を充分に補ひ得る共に消化機能を健全にするこゝが出来る。今後

玄米食になれば當然咀嚼訓練は實行される事と思ふが。

四、日光浴(太陽の直射光線による)

ヴィタミンDは日光中の紫外線によつて、賦活されるものである。太陽も又栄養補給に大切な役目のあることを忘れてはならない。

五、栄養剤の補給飲用

食品材料の偏在から缺乏勝ちな栄養素を添加し、幼兒の肉體の發育に必要な諸栄養素の補給にも幼稚園で取扱ふことは、みんな必ず飲む、いやでも飲む、忘れず飲む、云ふ點から良い方法ではなからうか。夏期はヴィタミンB、冬期はヴィタミンAの配合されたものが適當であるが、ある程度、幼兒が喜んで續けて服用出来るものを選ぶ方が好都合である。

四、積極的に身體の鍛練を行ふべきこと

子供の問題で戰時國家が最も強く要望してゐる處は身體を強く、丈夫にするこゝであらふ。まづ「ツヨイコ」にならなければならぬ。勝ち抜く爲には頑張れる氣魄と體力がなければならない。そこで幼稚園と家庭とが一致して、積極的に幼兒に働きかけ、親も子も精心する心構へで次の各項を實施され度い。是等は今迄誰にも云はれ常識となつてゐるが、今新たな意味に於て實行せられ度い。

一、日光浴、空氣浴

太陽の直射光線は健康増進にも病氣の豫防にも絶對の效果あるもので、保母は保育の一日を、いかに日光の中に暮すべきかを、苦心すべきである。

イ、戸外保育、四季を通じて努めて戸外即ち、園庭、屋上に出る事。但し夏は帽子をかぶり長時間にわたらぬ様、冬は手袋、靴下等を去り皮膚を多く曝すやう。

ロ、園外保育、紫外線に浴し、新鮮な大氣を呼吸し得る郊外には出來得る限り屢々幼兒を運出すること。

ハ、裸體による日光浴、三月末より五月下旬九月より十一月初旬までの二期は晴天にも恵まれ氣温も適當で日

(パンツだけ)で十分一二十分行ふ。

二、乾布摩擦、徒手摩擦は皮膚の抵抗力を高めひいては身體の抵抗力を増し薄着に慣れ感冒の豫防ともなる。

四、運動

イ、脚の鍛練、歩く事によつて全身の發育を助長する最も簡単に何處でも行ひ得る方法である。方法、運動場、屋上、附近公園、神社等近距離より次第に遠距離にして、

二糠前後の往復程度で毎週一回又は二回云ふやうに計畫をたて、實行する、但年齢、環境によつて斟酌、考慮すること

ロ、桟登り、鐵棒あそび、胸廓の發達を計り取扱ひ方法

により克己心の涵養ともなる。方法、桟登り競争、鬼ごっこ、廻轉、飛び付き、懸垂競争等、個人遊びに委せず團體遊びとしても取扱ひ、適當な指導を與へること。

ハ、砂場ではだしになること。扁平足の矯正にもなり幼児も喜んで行ふことであるから春、夏、秋は砂あそびにも相撲の際も、幅飛びにも、男女とも靴下なしで遊ぶ。……以上の運動は全市各幼稚園の實行してゐる健

康保育の中で特に東京市技師岡田博士が幼児に適當であると選擇、推奨下さつたもの

イ、夏から始める、半裸體となり乾いた手拭で全身を赤くなるまで擦る。

ロ、年長組を幼稚園で指導し、冬期になれば家庭で起床時に行はせる。

ハ、勵行表をつけさせて獎勵する。

三、早寝、早起、正しい休養(睡眠)によつて幼児の疲勞を恢復せしめる。

方法、早寝早起グラフを母親に記入させ、正しい標準を示して家庭を指導し、實行させる。

いつれの何處の幼稚園でも實行出来る様、考慮して選ばれたものであるから、一つでも徹底的に、科學的計畫のもとに實施したらば幼児にさつて幸福であり、保育報國の一端にもならう。

體育遊びに就いて

千葉縣女師附屬幼稚園 中 閃 春 子

身體を健全に發達させる事の大切な事は言を俟たないの
であります。時局下特に健康保育を叫ばれるのは誠に喜
こぼしい事であります。特に最近幼兒の鍛錬といふことが
盛んに問題となつて來た様であります。此れは從來も當
然考へらるべくして幼兒といふ單なる感傷的觀念の下に比
較的等閑にされてゐた様に思ふのであります。幼兒といへ
ども國民生活をしてゐるのであり、言ひかへれば少國民で
あります。皇國民として鍛成さるべき我々の次の世代たる
幼兒であり、たゞ子供とか幼兒といふ意味のものでなく
その内に皇國民として育成するといふ一つの幼兒觀を持つ
た所の幼兒であります。こゝから躰もされて行くのであり
ますが、鍛錬もこの意味に於てなされて行くと考へるので
あります。天真的性能に基きこれの發揚を計るといふ從來
の行き方に反省を加へねばならぬのであります。この様な
國籍のない保育は此の際斷じて捨てるべきであります。日
本人として、陛下の爲に働き、陛下の爲に海底に消えて行
るものであります。

そこで積極的な健康保育或は鍛錬は正常なる發育の身體

く、陛下の爲には莞爾としてその命を惜しまぬ國民に日々保育の道を歩むのであります。

そこで健全なる身體の鍛錬とは、幼兒に於ては、その目
ざましき發達に即し、生活即ち遊びをより良き習慣へと躰
ける爲に子供自身の生きる力を尊重しその力その生命の要
求に即應する爲に、より積極的生活を彼等の生活に結びつ
けて少しづゝ無理に耐へて行くことの出来る身體にして行
くことであると考へるのであるが、この鍛錬することは常
に養護と離れては言へぬ事であり、特に幼兒に於ては、表
裏一體として行はるべきものであります。從來はさかく幼
兒の健康といふと治療醫學的にのみ考へられ、積極的に生
活に結びつけて考へられなかつたのであります。この爲に
國民學校令になつてから、藝能科家事の教材に於て或は體
鍛錬科に於て正しき鍛錬への方向づけを國家は明かに示して

に於て始めて效果的であり、結核性の虚弱兒特にマートー氏の反応が陽性轉化したばかりの者は殊に注意を要するのであります。集團的に鍛成することによく體質を検して後行はるべきものであります。

當幼稚園に於いては、豫め身體検査を行つて入園する關係で比較的この方面の注意を要する者は少いのであります。しかし四月初は馴れぬこゝ共に却々個々の體質を確認するこゝが出来ません。自由遊びの間に個人々々の體力或は興味の方向等を静かに眺めて居る間に偏してゐる部面を發見し之を研究して一齊に當日遊戯場で行つた様な形式で之を課して行つたものが當園の體育遊びなのであります。

先づ園児戸内外の自由遊びを眺めるごと、シーソー・桟登り・滑り臺・箱積木・家ごっこ・ぶらんぐ・砂遊び・低鐵棒城・壁登り・懸垂運動となる遊び各種・竹のぼり、設備の必要なきものには鬼ごっこ・狼ごっこ・影ふみ・運動會ごっこ等舉げれば限りなくあるが之等の實によき遊びは、體育的に見れば、各種の運動が綜合されて子供の四肢體のよき發達が考へられるのであるが、全園児を捕つてしかも身體的一般的發達をさせるためにはどうしても幼兒を思ひへんにさせて置くよりも、より積極的に誘導して行かねばならぬのであります。又幼兒の間から團體的に行動するこいふこゝ

は是非必要なのであります。その意味からも一齊にさせる體育遊びの價値を考へられるこ思ふのであります。

幼兒の體育或は體操と言ふがこれは大人のそれとは異り、子供自身の自發的活動を促進する様極めて自然的に、子供自身の反射運動を利用して導くこゝが大切であります。幼兒は一見丸々と肥つてはゐるが筋肉のしまりが無いから唯鍛錬さいつても骨格の出來上つてからのそれとは異り、いはゞ子供の自然の動きを誘導して四肢の屈伸、體の捻轉運動等種々加動性を與へることにより骨格・筋肉・運動神經を鍛錬するこゝこれが幼兒の運動として必要であります。

四月からの事を簡単に説明して行くごと、先づ始めての團體行動なのであるから總べて、友達ごと一所に行動するこいふ觀念の下に樂音に合はせて起立・着席・禮から行ひ、歩くこゝから始め、音樂遊戯等も簡単なものから加へて行くのであります。此處で歩くこゝであるが、大谷武一先生の正常歩に細かく示されてゐる。歩行訓練の必要であるこゝは言ふまでもないのですが、歩行は最も生得的な運動であつて、しかも中々註文通りにうまく歩けない爲に、その事は直接間接に、國民生活の上に種々なる障礙となつて表れて來る譯であります。特に幼兒の間に正しき歩態を以て訓練しておくこゝが必要なのであります。跳ぶこゝの始め

として一拍跳歩(スキップ)を幼児は好むのであるが音楽遊戯の中に加へ或は一人組で行つたりして此の當初に於て旋律に合はせて動作を團體でするといふこゝに入らしめてしまふこゝが大切であります。

五、六月になればそろ／＼全體が揃つて、しかも殆んど正確な拍子に合はせて行動出来る様になりその合理的な快感さ、同時に一人／＼で勝手にする時には味へぬ困難さを感じ始めて來るのであります。勿論四月からの延長ではあるがその頃より聽覺訓練を結びつけて、一層正確なる動作を要求しつゝ、より多種の高次の體育的な動作を加へ、音樂遊戯を加へて行くのであります。詳しくは保育實際案に記入してあるので省略したいと思ふのでありますが、ハボト及び・ハ・ボ・トの區別及びハヘイを覺えて來たこゝから音感遊びの様なものも適宜加へて行くこゝも容易であります。何人か組をつくつて歩調を揃へて歩くこゝも殆んど出來る様になつて來るのも此の頃であります。七月に入つて、犬になつて床をはわせ、床を廻轉させるといつた身體全部の運動も無理なく面白く行はれて來るのであります。

かくして第一保育末期の身體検査の結果は平均して標準より上であつて、標準に達し得ない者は五、六名といふ状態であつて、第二保育期への期待の大なるものがあつたのであります。

大體此の様な園児の狀態であるので自由遊びの外に遊戯場に於て體育的な相當運動量の大な遊びを三十分或は四十分續けてもよいといふ確信の下に一例を擧げて見たいと思ふ。

これは先月十一月七日に縣主催の保育研究會第一回會場に當てられし際行つたものであります。

一、着席・挨拶・起立・開列(體操熊形をこる) 静かに落著く、不動の姿勢をばつきり體得する。

一、宮城遙拜

(當番があるので全児がこの番になるわけである)

此の時は一幼児の號令により全園児が宮城に對し奉りて最敬禮をし、國旗に對して禮をするのであります。この時の態度に就いて、幼児にも嚴肅さを知らしめ特に皇室に關

へしになる傾向であるが、今年は生活訓練(家庭に於ける)の爲か直に次へ進むこゝが出來て割に圓滑に行つた譯である。特に運動會のあつた爲に團體訓練は各々が自信をもつて行動出来る迄になり、と共に身體の發育も健康状態も實に順調であつて、特に身長の増加に見るべき者が多くなつて來たのであります。本校國民學校・幼稚園三つの建物の廻りを一周しても駆足にてまだ餘裕を見せてゐる者が多くなつて來た様な状態であります。

第二保育期に入つて、例年ならば稍々第一保育期の縁か

する事であるから決してふざげる態度は許されないのであります。

一、幼児體操(連續二回)

今まで外で自由に遊んでゐた者から充分なる注意と從順を要求することはこれから行ふ體育遊びをより正しく行はせるために必要な事であります。そこでこの體操の時は正しく眞面目にこいふ訓練をするのでありますが、年齢に應じ體力に應じて、矯正し、より適確な動作を要求するのであります。

二、いそぎのお使ひ

正常歩の訓練をする。下肢の血行をよくして氣持をこゝ

のへる。

三、兵隊さん

股を高くあげて行進する。胸を充分張つて、膝をのばす。

四、兎さん

幼児に興味のある跳躍運動である。彈力を利用して高く

こぶっこを要求する。

五、蛙、ハホトの和音にて

兎では體を伸ばして跳ぶことをし、蛙では縮めたまゝ跳ぶこゝしかも一點ハホトによつて静止することにより次の動作への準備となるのであります。

六、水兵さん(音樂遊戯)

園児の好む遊戯の一つであり、運動會に行つたものである。各部の運動のよく織込まれたものと思はれる。

七、夕やけ小やけ

此處で誰でもよいから二人で組んで動作をする。協同動作の快を味はせるのによいと思はれる。八番も同じ傾向である。

八、幼稚園のお庭

九、なべなべそこぬけ

體捻轉のよきものと思はれるので織込んである。

十、舟漕ぎ

二人が向ひ合つて坐り身長の大きい者は足を開き小さい者は揃へてのばし一隻の舟をこしらへて手をつなぎ交互に體を前後するのであるが、前に行つた時は顔が膝につくことを要求し、後の時は身體が真直ぐになる迄こいつで續ける。膝をまげぬこゝを極力注意することが大切である。

十一、いもむし

十番までは各自自由に行はせたのであるが、十五番の誰のが高いを行ふためには、足と頭が接近せぬために十一番で六人組となり、十二番からこの六人組を單位として行ふこゝになるのである。このいもむしは先頭即ちいもむしの頭になる子供が立つて後の五人を呼ぶのであるが、残りの五人はいもむしになつて集つて来て六人揃ふと一匹のいも

むしろなつて前進するのである。

十一、汽車

ガッタンコッコの四拍子強・弱・中強・弱の拍子を足の音で出させしかも先頭の汽關車は常に客車を離れぬ様に注意しながら足も揃つてゐなければならぬので相當高次のものであると思はれる。最後に停車場に停車して次の動作を待つ。

十三、靴がなる

六人が圓形をつくりながら友達同志適當なる間隔をこらせるここのために之を加へたのである。「うたをうたへば」で圓の中へ入つて、又外へ出るが最後の「くつがなる」の時は跳躍を加へて見たが、此の際足を伸ばして片足づゝ踏み違へることを要求する譯である。

十四、舟遊び

六人が中央へ足をのばしてつき合はせ愉快に遊ぶ。

十五、誰のが高い

静かに友達の頭へ足をやらぬ様に注意して、床の上に仰臥させる。ハ・ニ・ホ・ヘ・トによつて、兩足を揃へて高くあげる。膝も、足首も充分に延ばすことを要求する。ト・ヘ・ホ・ニ・ハによつて静かにおろす。背を延ばすことしが出来るのである。更に腰までも高く擧げることを漸次要求する豫定である。

十六、飛行機

飛行機の擬音により、すばやく廻轉して、兩翼を張り、尾翼、胴體共に充分伸ばして、緊張する。この時膝の曲がらぬこゝ胸をぐつこおこす等大切なこゝである。途中休息を入れて充分休ませて、渡洋爆撃に向ふ。宙がへりもあらうし、爆弾投下、地上射擊と思ひ思ひのこゝを言つてゐる。相當體力を要する運動であり、又忍耐力がなければ最後迄續かぬと思はれるのである。

十七、かめさん

前の緊張に對して休止符である。縮まつて床上をはふのである。

十八、軍用犬

腰の力を強くするにははふこゝが大切であるこゝから早くおそく色々にはわせる。

十九、象さん

なるべく足くびの方をにぎつて、ちつし〜〜と歩くこと。

二十、くぢやく

呼吸運動を加へつゝ兩腕をのばして側から斜上に擧げながら、爪先で行進する。充分體を伸ばす。途中静かに一廻轉させて又之を續ける。

二十一、日の丸行進曲

最後の整理運動として、軽く歩かせる。

打楽器の音によつて何組か決めてあるので次の動作へ移る時には例へば歸る仕度に行く場合等は音によつて行動させるのである。

以上は一例であるが、かうしてより多くの遊びを加へて行くのであるが、幼兒は同じものを何回も繰返して飽かないのです。比處が國民學校の教授細目と異なる處で保育細目を書くのに困る處であります。同じものをやりつゝも保姆には何等かの目的があります。かくして子供は遊

戯するこに夢中になり、彼等自身主觀的に運動の快感を得てゐるのであります。それは各々の全身心の躍動でなければならないのであり、従つて緊張と解緊の絶えまた循環の中に自然的でございまでも伸びくじた鮮かな動作でありたいものであり、伸縮自在に自己の身體を支配し得る能力を養つてやることは最も必要な事であります。この身體支配の能力は生活のあらゆる部面に必要缺くべからざるものであります。

これを一通り見て感ずることは競技の部面に觸れて居らぬ事であります。之は戸外で行はせる外狹いので出來ぬ關係上取扱を加へずに立案したものであつて、これも大いに加へたいものである。簡単に言ふと、幼兒の競技は多く個人本位であつて、力に甚だしい差があるので勝つ者は何時も勝つのでよいが、負ける者は何時でも負ける。幼い時

から自負心を強くするのは困るが、それにも増して、怖いのは劣等感を持つたることであります。將來大いに發展すべき素質を持つて居る幼兒に一人でも劣等感を持つてはならぬのであります。精一つぱいに努めた時は共に喜んでやり、貰めてやらねばならぬのであります。團體競技の場合は規律に従はしみることが大切である。協同作業の喜びを味はすにはよき機會であります。

競技をするご幼兒の個性がはつきりして來るのであります。勇氣のない方に勇氣を與へ勝つ事ばかり目的として人を押しのける者には正義を重じさせること同時に時には負けた時の感を持たせるこも必要であり、不幸をなだめ、威張るをおさへ、神經質の子供を快活にして、ふざける子供に眞剣味を味はせ、眞面目一方の子供に諧謔的氣分を與へる等の事が出来るので身體鍛錬と共に精神的鍛錬部面の多いものと思ふのであります。

斯様に考へて來ると、眞の鍛錬とか教育は空疎な觀念の敷衍ではなく、生きた現實と結びついた時代の正しい精神の反映でなければならぬと思ふのであります。幼児の鍛錬も平坦の路ではなく、航海の如く、遠洋萬里の希望は洋々として遙かく輝いてゐるのでありこの希望は自らの誠を捧げ、力を盡して實際に當る者のみが持ち得るのであります。かくてよき幼兒のある所明日の日本は無限に生み出されて行くのであります。(以上)

保育雑感

母の保姆

附属幼稚園 安村ふさ

(一)

「うちもを持つてもの見方が變りますよ」。受持の子の母親にいはれ、さうかしら、さうなつてもやつぱりこも達は可愛いと思ふだらうし、よい子にしたいと思ふのに達ひはなからうに、等考へてゐましたが、今我が子を持つてみて成程と思ひ當る事があります。自分の手に託せられたこども達はどの子も皆可愛く、よかれと頗る氣持は今だつて少しの變りもないのですが、以前には其の氣持の強い餘りに、些細のでも屢々母親を煩はす事がありました。今母となり、以前には思ひも及ばなかつた育児の忙しさにあたふたと過してゐますが、其の中で最初に強く感じたのは、こどもを育てるといふ事は大事業だ、といふ事でした。同時に、お母さん方にあの様な事であんなにまでいはねばよかつたと沁々後悔され、あの事、この事が一々慚愧の氣持の中に思ひ出されました。こどもを健康に育て幼稚園に出す迄には何んに多くの母親の思ひがあつた

事でせうに、こどもはかくも切ないものかとは、事實我が子なくして味はれぬ思ひでありました。以前は弟妹に對する同じ親しい感じを抱き、其の氣持で保育してゐるつもりではありました。が、然しか、知識とか氣になり、きほひの方が勝つてゐました。私が今は、それより前に、我が子の如く先づかなしいものに思はれ、凡ての保育はそこから出發し、そこに歸つて來るのです。こどもを持つてこどもの見方が變るといふ言葉も今にして沁々うべなはれる言葉であります。

(二)

「母になつてよくなる先生さ。駄目になる先生さあります。あの先生は益々よくなつた方ですよ」。ある小學校の體操のお授業を參觀した時、そこの校長先生がしみぐさした調子でおつしやいました。其の日は二月も末で、冬も幾らかゆるみ、南東の風が軟く顎を撫で、大變晴朗な日でした。私共は校庭を見下せる小高い築山から見學してゐた

のですが、其の先生の元氣な號令、こゝも達の張り切つた動作等が快よく目に入り、校長先生のさびたお聲が冴えた頭にこゝんこ落ちついたものでした。あれからもう四年の餘りになりますが、さうした事も忘れて過してゐる中に、私も仕事を持つ母になりました。組の子の母親に、「置いていらつしてはさぞ御心配でせう」。といはれて、「いゝえ母がみてゐてくれますから」。と判然答へられる私ではありますけれど、果して其が本心かしら、ふと思ふ事があるのです。我が子が健康の時は實際思ひ出す事もなく、又暇もないのですが、一寸、朝、様子がをかしかつたと思ふ時等、保育してゐても心のこゝかゞ重くないと言ひ切れるかしら、この何だか後めたくなりります。そんな時に、あの日の印象深かつた光景、校長先生のお言葉が頻りに思ひ出されるのです。そして慚愧に堪へない事も度々あるのですが、それにつけとも、働く母の爲にこゝを預かる設備があればよいと思ふのです。工場等では大抵さういふ設備がある様ですが、學校等の場合は數も少く特殊の故か餘りない様に思ひます。日本の幼稚園では、いろいろな關係もありませうが、保姆は一體に若い未婚の人が多く、異動が激しいので、さうした設備を要望する人は少いのでせう。併し、さうした設備がこゝかしこにあつたなら、保育は母性的なものですからもつと多くの人が保育界にじつくり身を据えてかゝれ

るのではないでせうか。責任の醫師もろて、いろいろ育児の指導をしてくれ、日中、責任を以つて預かつてくれたら、こんなにいゝでせうか。さうなればよい先生になれるといふものでもありませんが、少くとも隨分安心して活動出来る様に思ふのです。私の知つてゐる或る先生は「女中に預けて来るのですが、歸つて元氣な顔を見るまでとても氣になります」。申して居られましたが實際、責任のない者に託する程心配な事はないと言ひます。此の時代にこそさういふ設備がありたいものだと思ふのは勝手な願ひであります。

東京市保育挺身懇談會

集 東京市保育會會員一同は二月六日正午神田神社に開
長・藤谷幹事長の誓文朗讀に園長代表日本橋東華幼稚園
長・古宇田喜平次氏、保母代表濱町幼稚園主任水野世志
代等の玉串奉奠に聖戰の完遂を祈願いたしました。
續いて明神下にある會場神田區芳林幼稚園に於てお互
に胸襟を開いての懇談に、本市保育の振興を計り、御奉
公の誠を誓ふ可く保育挺身懇談會を開催いたしました。
本會長東京市教育局長始め關係者一同、園長及保母
二十五名出席嚴肅な中にも和やかな意見の交換に、戰時
下保育の如何にあるべきかを話し合ひ、更に海軍大佐大
宅由耿氏の國際戰局と帝國海軍と題しての舌端火を吐く
その覺悟を深くしたのであります。

お 畫 か き 雜 感

上 遠 文 子

眞白い畫洋紙に、太いクレヨンで線を引く。曲る。伸びる。まるまる。そのうちに画面にはタンクが画ける。軍艦が、お人形が画ける。小さい手に握りしめたクレヨンで、自分のかつて見たもの、又自分の想像してゐるものを見く時こそ幼兒達は、大畫家がカンバスに向ふ時の様に、眞剣で且つ喜びであります。

四月入園當初 目の前に出された、畫帳ごクレヨンに、いきなり画いた繪をみます。私達からみるご一本の線ですがそれが人であり、電車であり、靜物であるのです。直線が曲線に、曲線が圓に變化して次第に大入道の様な人の顔がかける様になります。大入道に手足がつきました。やつと貧弱ながら胸がつきました。此處まで参りますご畫題も次第にきまり、電車、汽車、自動車、お嬢さん、お家、お花等もかくやうになります。形もそれらしくになります。線のしつかりしてゐる上手ごみなされる幼兒でも、はじめは、線画で、しかも一物體をほんくご孤立的に画い

てゐます。「色を塗つていらつしや」と教へ、それに背景なるものを教へ、一つの繪になる様導いて來ました。線もしつかりして形もさゝのつてゐる幼兒はそれからざんぐ上手になります。線のしつかりした幼兒に比べ、線の不明瞭、即ち一つの輪廓でも澤山の線、ひげ線をかいてしまふので、しつかりご一つの直線になるまでは却々かかる。しかし一概に、云へず、ある幼兒は、側で見るご實に線が不明瞭で形もはつきりしないがしかし一步離れてその繪を見る時、こてもよく出來て、又生きてみえる繪をかく。繪をみると殆んど、大小の斜線で畫かれており、すらぐご画くクレヨンのはこびにいつも感心してながめてしまふ。この様にして度重ねる毎に、月日を経る毎に、進歩し、國民學校へ行く頃は、立派に一幅の繪をかける様になります。幼兒は、お友達の上手な繪を見て感心し、眞似をします。次第にそこに進歩をもたらしますが、又指導も必要の様です。「自分はあれを書きたい」と頭の中には立派に浮んでる

ます。しかしさクレヨンを手にし表現する時、さうして
よいか手がうまく、自分の理想通り動かないとするごと、さ
ても／＼殘念だまらないでせう。その時、自分の手を持
つてすら／＼こ書いてくれたなら、なんにくうれしいで
せう。さ私は考へ、時々思ふ様にはこばない幼児の手を取り、
り、書いて居ります。又、畫全體、又一物質が物足りない
時、こんな時も画面を賑やかにするため、手を持ち書いて居
ります。しかし依頼心の強い子にはしたくないのでこんな
事はたまの事です。大抵は口で、画面のおぎなひを教へ幼
児自身にかゝせます。幼児は誰でも画く事を好みます。そ
れをいつまでも續けさせたい。思ふ様にかけぬから嫌だ、
其處に隙をつくらぬ様画く事の樂しみをいつまでも捨てぬ
様にして上げたいのです。下手ながらも自分の考へをか
き出せる様になるごと、幼児は画面に入り込んでしまふ。例
へば、戦争の繪をかいてゐる。日本の軍艦、敵の軍艦、空
に飛行機、立派な繪がかけてゐる。その中畫は活躍し始め、
空から敵の軍艦を爆撃はじめ。軍艦からも大砲をうち
はじめた、その中に敵からもうちすゝめ、はげしい戦争に
なる。その時幼児は赤い焰をかきながら、ぎん／＼こ大砲
の音を口に出しながら一生懸命。さながら自分が大砲がか
りの様に。その中、大砲も命中、爆弾も命中、こクレヨン
の赤い線が敵の軍艦までのび、たうたう燃え出して沈んで

るます。敵の軍艦は真赤に塗りつぶされた。その時の画面
をみると、軍艦も飛行機もみない位、真赤に、交互の線が
亂雑に、見る蔭もありません。思ふ存分戦はせた末、「はい
出来ました」と持つて来るのです。その真剣なる戦争の最中
の幼児を見る時、本當にほゝえましくなつてしまひます。

お畫かきを用ひて觀察する事もあります。季節のお花を
か、珍しいものがあつた時、とか道具とか、いはゆる寫生
なるものも致します。「これをかきませう」と決められるこ
難しいらしく、あまり喜びません。實物をみて畫くのです
から、正確です。物をよく見る習慣、正確にかく習慣がつ
くでせう。氣のつかぬ所は、實物ごみ比べてみさせる様、
注意する必要があります。

この四月年長組になる組なので年長組のお畫かきを皆に
期待しつゝ、一年の私のお畫かきに對する處置法を考へ直
してみました。

繩 跳

附属幼稚園 古澤 静子

一すじの繩がくる／＼廻る時、喜びを通して強い體力が

鍛えられる。

繩跳は全身を飛躍させるここに繼續である。脚や腰が強くなり、心臓と呼吸器は力を増し、いきがはあ／＼しなくなる。

そして、繩の廻旋と跳躍の結合によつて、身體の支配力、運動神經が、自然に鍛えられる。繩のリズムが一體になつた時のうれしさ快よさ。生続が歓喜が脈々醸し出される。

短繩による簡単などび方。

一、兩脚跳

先づ最初は誰でも跳ぶであらう。

脊の繩を身體の前へ廻し、足下に近づくや兩脚揃へて跳越する跳び方。

一、片足交互跳

股膝を自然に、交互にあげてこぶ。

擧げる足は前に擧げたり、後にあげたりする。

一、前屈跳

跳躍の瞬間、身體をぐつと前に屈げてこぶ。

一、脚側開閉跳

繩をこぶや、兩脚を真横にさしあげ開く。次に來る繩をこんで、脚を開ぢる。

一、前後開脚跳

跳躍の時、さつと前後に開脚し、着地の時兩脚を揃へる。

一、繩の空振

跳躍をせず、直立のまゝ、兩手又は右(左)手で繩の兩端を併せて持ち、肩から廻旋する。體の側に、圓を描く様に、又は前面で廻す。體を繩の動きに従つて大きく廻す。振るだけでも臂の力を増す。

一、繩跳行進

片脚跳によるごび方が行ひ易い。

多勢集つて縦隊又は横隊になり、ごびながら行進する。

成るべく一齊に繩が揃ふ様、行進曲に合せててもよい。

一、繩跳疾走

繩を旋廻しながら、個人の最高疾走で飛び走るものであつて、三十米位の距離を、一人づゝ走つたり、一齊の競争にしたり、或は競争にして行ふ。

長繩による團體遊び

一、ジャンケン跳

二人が長繩に入つての拳遊び。

「お嬢さん、おは入りなさい。

ありがたう！　じやんけんばん。

負けたらさつきお出なさい」

拳をして勝負が定まつたら、新手が入る。

一、寶拾ひ

跳びながら下に落してある寶（小石でもよい）を拾ふあそび。

二人で長繩を廻し下に寶をおく。繩は寶に觸れない様、

高目に廻し、跳ぶ人も高くさぶ。一人でざんで拾つてもよいし、二人同時に入り、何回かこんだ後、一個の寶物を取合つてもよい。

一、お誕生日繩跳

長い繩を二人で廻す。跳手はきんぐー繩の中に入つてゆき、皆揃つたら、「一月」「二月」「三月」三月の名を順に歌

ひながらさび、自分の生れた月を云ふ時、抜け出る。

最後に「十一月」の人が残る。

今度は、皆揃つて入り、「一日」「二日」「三日」三日を數えながらさび、自分の生れた日が來たら、抜け出る。

一、くぐり抜けさび

一本の長繩の両端を一人で持つて廻し、その中をくぐり抜けする遊び。

イ、順廻旋の繩の潛り抜け

跳手の方に向つて廻つて來る繩に入り、目にもさまらず、

一跳躍して反対側にくぐり抜ける。

ロ、後廻旋の繩の潛り抜け

跳手の反対側に廻る繩が、地を叩き上に廻り上る時、機

をみて入り（一跳しないで）、ばつさくぐり抜けてゆく。
多勢の跳手は、一列縦隊で連續して行つたり、横隊になつてくぐり抜けたりする。

一、メデシン繩跳

縦隊に並び、適當の高さに張つた長繩の両端を持つ二人が、列生の上を通しながら進む、列生は絶體に其の繩に觸れない様にする。

イ、上を通すメデシン繩

列生に面した一人の助手（繩を持つ人は、繩の両端を持ち、適當の高さに繩を張つて立つ。合図と共に二人は列

生に向つて薙ぎ拂ふ様にして走り出す。列生は繩が自分に近寄つたら素早く前屈し、通過したら直立と共に後向きになつて繩の引返しに具へる。全員通過と共に、再び繩は彼等の上を通過して出發點にかへる。

〔注意〕 繩の高さに低、中、高の變化をつける。従つて極めて低く繩が通過する際には列生は匍匐する。

繩を通す速度を時々變化させる。

列數にも變化を與へ、一列になつたり、二列になつたりする。

繩は列生の脊後から通過しても面白い。

口、下を通すメデシン繩。

列生の足を薙ぎ拂ふ様にして、繩を持つた二人が通過するもので、助手の二人は列生に向つて膝より稍々低く繩を持ち、急ぎながら、列生の足を拂つてゆく。列生は、前に來た繩をびよん／＼跳越し、着地と共に後向きになつて繩の引返しを待つ。

たゞ一本の繩で、いろいろな面白い遊びが考へられましたが、最も幼児にふさわしい二、三の遊び方を並べてみまし。

保育實習科生徒募集

(官報抜萃)

本年四月入學セシムベキ保育實習科生徒ヲ募集ス其要項左ノ如シ

昭和十八年一月

東京女子高等師範學校

一、募集人員 凡ソ二十四名

二、出願期限 二月一日ヨリ三月十日マテ

三、學 資 學資ハ總チ自費トシ授業料年額金五

十五圓ヲ徵集ス

四、選拔試験

入學志願者ニ對シテ學科試験、身體

検査、人物考查ヲ行フ

1 學科試験

國語(解釋、作文) 理科生物(植物ニ關スル事項)

圖畫(自在畫)

音 樂(唱歌)

2 期 日 本年三月十七、十八日ノ二日間

3 場 所 東京女子高等師範學校

詳細ハ四錢郵券ヲ貼附シ、宛名ヲ記載セル封筒ヲ添ヘ本校ニ承合スベシ

兒童心理學

(第十一講)

牛島義友

睡眠と遺尿の問題

人生の三分の一は睡眠に過ぎてしまふ割合に、人々は睡眠に對して無關心である。眠られぬ夜でも續くに大きわざするが、健康に眠つてゐる時には睡眠の事等考へる事がない。大人の眠りにも問題があるが、子供を眼らせる場合にも案外に母親達を困らせてゐる。ねつきの悪い子供、抱いてやらないで眠らない赤ん坊、添寝や、お乳をやらないで眠らない子供は、毎晩の事だけに、母親の時間を奪ふ事も非常なものであらう。

小さな子供は成長や新陳代謝が激しいだけに、疲勞した器關も恢復させる爲に長い睡眠時間が必要である。併し大きくなるに従ひ、この恢復時間は少くてすむ様になる。從來標準睡眠時間が色々な學者によつて示されてゐるが、理論的に必要される時間は子供の實際の睡眠時間よりも長くなつてゐる。之は學者の計算が多過ぎるか、子供の實際

の眠り方が足りないかのどちらかであるが、どうやら前者の様である。今この標準時間と實際觀察時間とを示すに次の表の如くなる。この睡眠時間は午睡の時間も含めた一日の睡眠時間である。尚ほ最後の欄の時間は觀察時間から割出した時間であつて、之が結局標準睡眠時間として最も妥當なものである。

午睡は三歳乃至六歳の間にやまつてゐるが、子供が睡眠不足、疲勞、不健康等の徵候を示さなければ強ひて行ふ必要はない。併し幼兒は一日の中若干の時間、静かに繪本を見たり、靜かな遊びをする必要がある。

寝つきの悪い子供 乳兒が眠つたり目醒たりするのは空腹や満腹の關係のあるものであるが、成長するに従つて、寝つく習慣の問題となり、謂はどう子供は睡る事を習はねばならなくなる。睡るには先づ視覺聽覺の刺戟をさけ、更に觀念の流れが意識から消える必要がある。寝つくまでの時

子供の睡眠時間

年齢	推定標準時間			観察時間				综合標準 (時)			
	Dukes (1899)	Hess (1919)	Burnham (1920)	Brown (1926)	Seham (1926)	Terman Hocking (1913)	Flemming (1925)	Hayashi (1925)	Chant Blatz (1928)	Faegge Anderson (1929)	Reynolds Mallay (1933)
1-0		16-18		16	16-22		15;05		14;45		15
1-2		12-13	12-14	15	16		13;20		13;42	13;14	13.5
2-3		12-13	12-14	13-14	15		12;49		12;45	12;43	12.75
3-4		10-11	12-14	13-14	14		12;30		12;32	12;07	11;23
4-5		10-11	12-14	13-14	13		12;00		12;07	11;43	10;57
5-6			11-12	13-14	12-13	時 分	11;21		11;30	11;18	11.25
6-7		13.5		11-12	12		11;14		9;55	11;16	11;04
7-8		13		11-12	12		10;41		10;04	11;03	10.58
8-9		12.5		11-12	11.5		10;42		9;49	10;35	10.5
9-10		12		11-12	11		10;13		9;44	10;44	10.25
10-11	11.5		10	11	9;58		9;15		10;32		10.00

Louttit: Clinical Psychology より

聞せ、横にならぬ直ぐ寝てしまうのが、11-11十
分位までは特に遅い方ではない。

子供の寝つきを悪くする條件にしては、室内が明るかつ
たり、換氣不良、騒音、寒過ぎたり、暑過ぎたりする場合
がある。併し斯る條件は一時的な寝つきの悪やの原因であ
つて、慢性のもの、疲れてるにも拘らず却々眠らない場
合は心理的な躊躇の問題である。斯る場合、寝つく事が不能

やねぬり幅狭めるや、寝たまひはるやある。面白く遊び
やしてやる歯に無理に寝かせよといふやうに子供は寝るのを
嫌がる。床に就いてからも、やれ水が飲みたしの、おしつ
いがしたじ等と言つて却々寝よつてしない。又は水や排尿
を要求してゐるのではなく、實は親が自分達をかまつてく
れる事を要求してゐるのである。或11歳半の子供は餘りぐ
くへへ寝つて寝よつてしないのだ、父親が怒つて、早くね

ないことを叫びますよ」と叱つた。する子供は急に静かになつたが、やがて又「お父ちゃん、来て、叫いて」と言つた由である。

子供が寝る場合に屢々 変な癖のあるものがある。例へば一定のおもちゃを持つてねないことを承知しなかつたり、一定の枕でないことをねないことを、定つたふさんでないことをねない等をすねる子供がよくある。この爲に子供連れの旅行の場合に、自家の枕を持ち歩く様な例もある。

又子供が寝つかぬ原因に恐怖心がある場合もある。部屋が暗いから怖いとか、一人では怖いとか、鬼やお化けがあると言つて怖がつてねないものもある。併し元來恐怖は初めからあるものではなく、後から教へられ、植付けられるものであるから、最も賢い方法は恐怖心が起らない様に豫防する事である。

静かに眠らない子供 ねてる間は體を動かさず、じつとしてゐると思ふのは正しくない。觀察の結果によると、平均静止時間はわづか十一分間であつて、ねてる間でも絶えず體を動かすものである。之は氣温、湿度、食事等の外的條件に關係なく現れてゐる。併し極端なもの、例へば四肢をばた／＼させたり、歯ぎしりしたり、頭を痙攣的に動かしたり、泣き叫んだり、寝言を言つたりするのは、身體的條件や、夢や晝間の激しい活動によるものである。

夢 子供でも夢をよく見る。其夢は晝間の想ひ出や、満たされなかつた欲望の充足であるものが多い。この夢と睡眠中の活動とは深い關係にあり、其程度の激しいものを惡夢とか夜驚と言ふ。惡夢の後では目をさまし、其際夢の中の事を想ひ出す事が出来るし、又幻覺や發汗等は伴はない。夜驚の方は覺醒が伴はず、醒めても夢と現實とを混同し、夢中のものが幻覺となつて現れて來たりする。又この場合起き上つたり、泣き叫んだり發汗の様な激しい動作が現れる。發作中は靜める事が出来る。後になつて其時の記憶もない。發作は十五分から三十分位續く。この夜驚は三歳から八歳までの神經質な空想的な子供に多いと言はれる。斯る發作があつた場合は先づ覺醒させて、静かに氣持を鎮めてやるのがよい。

抜け方 一般に鎮靜剤に頼るよりも平素の様に注意すべきである。小兒の時から一定の時間に床につかせ、電燈は消し、一人でねる様にす可きである。子供が目醒めたり泣いたりしたら、おしつこ其他不快なことがあるのでないことを確める。子供に對しては寝る事は至極當り前の日常事である事を感じさせる必要がある。感情的な興奮や攪亂を感じさせる事が最も悪い。従つて例へば玩具を持つて寝る癖があつたり、一人で暗い處で寝るのを怖がる様な場合に、無理に玩具を取上げたり、強ひて暗い處に寝させよ

うさるのは却つて悪い。無理をするご感情的に攪亂する

事になり一層結果は悪くなる。徐々に斯る癖は矯正する方針でなければならない。

遺尿 睡眠中に一番困る問題はおねしょである。満三歳

以上にもなつてしくじるのを遺尿と言ふ。睡眠中にもらすのが一番多いが、晝間にもらす者もあり、中には晝間のみもらす子供も少しはある。遺尿者の數は十五乃至二十九%位であり、智能發達の遅れた子供には更に多い。遺尿の原因としては身體的原因、躾けの缺陷、神經質的性質等が考へられる。この中身體的生理的原因に歸す可きものは案外に少くて、ホルトの研究では六八%のものは何等身體的缺陷は無かつたと言つており、ウーレイは九割までは器質的缺陷は無いと言つてゐる。

身體的原因としては扁桃腺肥大、アデノイド、尿道口狭小、腫炎、背椎破裂、内分泌異常、栄養不良、貧血、直腸刺戟、酸性の強い尿等があげられる。尤も斯る原因があれば直く遺尿をする譯ではない。

遺尿は又遺傳するとも言はれる。ベトロウイスキは遺尿は劣性遺傳だと言つており、フレリイは家系的研究をなし、遺尿のある家系の家族七八七名中一二三九%は遺尿症だったと報告してゐる。

癖の不充分の原因としては更に細かく次のものをあげる

事が出来る。

1 親の不注意 教養のない親は子供の遺尿に割に無関心であつて、誰でも一度は遺尿をする時期があるものと考へてゐる。

2 子供の無能力、智能發育の遅れたものは排泄の習慣が出来上るのに時間がかかる。併し不能な譯ではないから、親は忍耐強く躾けねばならない。

3 遺傳的と思ひ込む事、親が之は遺傳だと思ひ込んでしまつて、特別の努力を拂はないために、何時までも遺尿を続ける場合もある。

4 訓練設備の不充分、便所が遠い處にあつたりする爲に、面倒がつて躾けを怠る事が原因の場合もある。

5 親が手をかけ過ぎる場合、子供がまだ小さいとか、弱いとか、病身であるとして、何もかも親が子供の世話をやき、其爲に自立の習慣が出来ない場合もある。

最後に神經質的な状態も遺尿と深い關係がある。遺尿をする子供の親や家庭には精神不安定の傾向が濃厚であつたり、子供自身にも精神不安の徵候が見られるものがある。斯る場合は神經症的な状態が原因で、其一徵候として遺尿が現れる譯である。従つて其他に指を吸ふとか、爪をかむとか、瘤瘻等の性質が見られる。

其他親の注意を惹くために遺尿をする場合もある。下の

弟妹が出来て、餘りかまつてもらへなくならるゝ、遺尿をする事によつて親の注意を惹かうとする。勿論斯る事をすれば叱られるにきまつてゐるが、子供としては叱られる方が、無視放任されるよりも嬉しい譯である。又恐怖心を結び付いて、見知らぬ處等に行つて恐怖を感じたり、尿意を感じる場合もある。又晝間に遺尿をする場合には遊びに夢中になつてゐて、不注意にもらす事が多い。

躊躇方 遺尿を防ぐ事が先づ大切である。この爲に九ヶ月乃至一年頃から排尿の躊躇をつけねばならぬ。其方法や注意としては

- 1 數日間おしつこをする時間を観察、記録しておいて、排尿する頃と思はれる時間に氣持のよい便器でさせる。
- 2 おむつを何時も清潔にしておいて、しめつた状態は不快である事を小兒自身に感じさせること。
- 3、おしつこをしたい時にはシーラ等の言葉で合図をさせ、この言葉は變へずに絶えず使ふ方がよい。
- 4 うまくすれば褒めるが、失策した場合には叱らないこと。

睡眠中は何回か起こして排尿させるが、其時間は夫々の子供によつて相違する。子供の實際の排尿時間を観察して、それに基いて醒す時間を定めてゆくことよい。次に出来てしまつた遺尿を矯正する方法としては、先づ

身體の診察をして身體的な缺陷があればそれを治す。次に食物の方を注意し液體のものは出来るだけ小量にする(數週間)。次に次の様なプログラムを守る。

- 1 夕食には液體のものを少くする。食後はお茶をのまさない。場合によれば寝る時に匙に一二杯水をのます。
- 2 寢てから二時間後頃にすつかり醒ました上で排尿させる。
- 3 次に二時か三時頃に同様に排尿させる。初の頃はもつと屢々行ふ必要がある。
- 4 遺尿をしなかつた夜は褒めてやり、其爲に日課表によいしるしをつけたりするのもよい。
- 5 夜中に起す間隔は徐々に長くしてゆく。例へば朝二時に起してゐたならば、それを二時半に變へ、更に三時に變へる様にする。

尙ほ斯る矯正の場合必要な事は子供が協力する態度をとる事である。この癖は必ず治るとの確信を持たせる必要がある。

大東亞戰爭必勝

幼児の母



昭和十八年二月

幼稚園から

○こどしは炭の足りない冬です。それを何で補ひませう。幼稚園では、日なたを一ぱいに利用してゐます。例年なら、陽のあつてゐる庭を窓の外に眺めて、炭火で燈をとつたりしたこともあります。こどしは、

戦時家庭の教育力

今、日本中の一切のことが、戦争を中心にして考へられ、行はれてゐることは、申すまでもありません、何から何まで、此の大東亞戦争に勝ちぬくために専念されてゐるのです。この時、家庭の生活も亦、戦時家庭でなければならないことも當然です。轟ろ、すべての家庭が眞に戦時家庭になりきつた時、國中は戦時生活になるといつていゝのです。

その戦時家庭は、戦争中心であるために、種々のこと事が顧みられず、缺けて來て、我子の教育上、常時の如く充分でありますまいといつた考へが出ることがあります。ところが實際は決してさうではなく、却つて教育上いゝ結果が起るのである。砂糖の菓子が減じて、幼児の健康がよくなつたといはれます。殊に最近の統計では、乳児の死亡児の數が従前に比して、ぐつと少くなつたのです。

これらは形にあらはれ、目に見えてのことです。戦時家庭の緊張が、勤勞が、その根本である報國精神が、どの位大きな教育力をもたらすのであるから、あらうかは、いふまでもないことです。我が子の上に及ぼしてゐるであらうかは、いふまでもないことです。我が子の爲にも、こゝをしつかり考へ、又實行しませう。

○ちつとしてゐては、流石に寒さを感じます。そこを先を越して、うんと元氣に運動して遊びます。この方針にはお子さん達も大賛成で、いくらでも飛び廻つて遊びます。そして、どうでせう、ほつべを赤くして、手などほかくと暖かです、何んど暖い子どもの體力でせう。

○それにしても氣にして、いつもより稍く厚着にせられるのは親心でせう。たゞ幼稚園で調節し易いよう、即ちぬいだり着せたりし易いように、して置いて下さい。又雨の日雪の日、途中なるべくぬれれないやうにして、登園させて下さい。

教 育

氣を強くするには

倉 橋 惣 三

「それはいよいよ負けませんね」

「いいえ、時には手傳つとしてやります」

「手傳つてですか。手傳はないで、おさせになつたら」

「でも」

「負けてはいけませんね。どうしてやられませんので」

「自信力ですか。それは大切ですね。ところで、たとへば」

「さようですが」

「だしさうする譯にもいきませんが、きっと申しまして、試みようとしませんのです。」「かとうふ時、どうなさります」

「あなたに出来ることと、あなたに出来ることとが、非常に影響することは火を見るよりも明らかのことあります。」

「おや～、お母さまが先づ弱氣ですね。叱ります」

「たゞ叱つても」

「あんまり、ぢれつたくなりますので」

「叱つてから」

「仕方ございませんから、そのまゝにして置きます」

國民學校への

心準備

附属幼稚園 菊池ふじの

大きい組の御子さんはもう一ヶ月ばかりの間に行かれます。この二ヶ月ばかりの間に、お母様方は、お母様の心意氣のは入るか、は入らないかによつて、お子さんは如何に達るものであるかと云ふことを身をもつて體験せられた筈です。早い話が國民學校の試験を受けさせ様として、一ヶ月位みつちりとお母様が心遣ひをせられたところが、受持の先生からも驚かれ、お母様自身もそのしつかりして来られたのに驚かれた例が一二に止まりません。この短日月に於てさへその相違が大きいのです。これを御子様の成年期までの長い間、御家族殊にてもお母様の心意氣が非常に影響することは火を見るよりも明らかのことあります。

いま御子様は國民學校へ進まれやうとしてゐます。手を引いてゆくやうな細かな指導が必要か否かは、御子様の性質によることもあります。又お母様の御意見によることもあり、お母様の御意見によることもあり、一様には申せないのですが、國民學校の凡ての學科に就ての大意をつかんであることは是非とも必要

かるのですよ」

「さうですか」

「それでも充分出来ない時は、出来たとこ
ろまでにして置いて、あとの部分を次の時
にゆづるのです。なるべく近い時につけ
させるのです。つまり、半分は自信を持た
せる譯で」

「どうして、あんなに引込み思案なので
せう。私がこんなにがみ／＼屋ですのに」

「がみ／＼屋さんでるつしやいますか」

「が

「分りましてございます」

「さう感心して頂いては困りますがね。」

「いへえ、つまり私が、子ともに要求する
ばかりで、先づ信じてやることが足りなか
つたのでござります。」

お母さまの教育ではないから、それは別
問題ですが、若し、がみ／＼屋さんでるら
つしやるのでしたら、それが却つて坊ちや
んを弱氣にしてしませう」

「あら、どうしてございます？」

「へへへ。がみ／＼屋さんは、人の力

を信じませんからね。人の力を信じてやら
ないで、その自信力を養ふのは無理ですか
ら」

「……」

「その辯、お子さんに自信力を出させ得る
ことの自信を、御自身持つてゐらつしやら

なくては……」

「……」

「お子さんをお信じなさいよ。といひませ
うか。御自分の教育の成功に自信をお持ち
なさいよ。といひませうか。どちらにして
も、自信のみが自信を養ひ、信ぜられるこ
とによつてのみ自信が出来るといひませう
か。……えらい、むつかしい言ひ方です

なことがあります。お母様の、無関心か、
又は大意をよんでもられるか否かによつ
て、御子様の御成育の上に如何に相違が
生じて来るかと言ふことは申上げるまで
もありません。

國民學校の學科課程を心得ることは、
順序が逆になりますが、つまり國の教育
方針の奈邊にあるかといふことを把握す
ることにもなるのです。その上、教育の
實際方法に就ての細かい心遣ひが分るの
です。ですから是非とも國民學校初等科の全
書を繰りて御覽下さい。

ヨイコドモ(修身)ヨミカタ(國語)コト
バノオケイコ(國語)カズノホン(算數)自
然の觀察(理科)ウタノホン(音樂)チホン
(習字)エノホン(圖畫・工作)等の本
を開いて見ますと、よく分ります。開く
までは一寸おつくうにも感じますが、開
いて見てよかつたと思はれるに違ひあり
ません。

さうして得られた教育感を絶えず御子
様の上に發散して行かれたら、御子様も
仕合せ、學校も教育效果が上り、従つて
親御さんも張り合ひがお有りになること
です。

只今では教科書も切符制で、書店に行
けばいつでも買へるとはいへませんが、
お知り合ひの方のを一寸拜借しても出来
ることです。

日曜日の子供

及川ふみ

幼稚園でお子さん達の健康の様子を注意して見てゐるが、一週のうち月曜日が一番

健康状態が悪い様に思はれるのである。

何かと身體に故障が出来て、保育時間中に急に家庭の方へおしゃらをして、お迎へに

來ていたり、幼稚園の方からお子さんをお連れしたりする事も時々あるのである。

發熱したり、腹痛をおこしたり、又いつともはつきりしなくとも、何となしに元氣がなくて、たゞほんやりしてて充分に遊べないなどといふのもある。

こんな時にお宅の方に前日の様子を伺つてみると、大抵の場合に、前日の日曜日の過労、過食に原因する事もあるやうである。樂しかった前日の遠足がお子さんには負擔が重すぎて、翌日幼稚園に來てからその疲勞が出て来て、遊びが充分に出来なくなつたり、親たちに連れられて親類知己の訪問に御馳走の喜びが思ひがけない翌日の

日曜日の家庭の團樂、家族づれの郊外散策或は動植物園ゆき、親類知己の訪問などいづれも頗はしい事ばかりであるのである。たゞそこに大人並に仲間入りの出来な

い幼稚のまちつてある事を念頭において、お子さんに無理のない様にくれぐれも

御注意願ひたい事である。勿論こんなことではお母様方に事新らしくて讀んでいただくのもどうかと思はれる位あたりまでの外出でない場合にはむしろ適當の監督者と留守をする事が児童たちにはどんなにかをのこしてはならないのである。子供本意の外出がない場合にはむしろ適當の監督者と留守をする事が児童たちにはどんなにかありがたい事かもしれない。ある。

又たゞに外出時のことばかりではない。家庭内にあつても来客があつたり、とりこみ事があつたりして、家人が多忙にまぎれて、不注意の結果子供たちの健康を損なう事であり、又失禮な事であるかもしけない事であるが、實際はこの何でもない事にとがまゝありがちな事である。外出時の不注意と共に家庭内にあつても、どこまでも子供の健康本意に日曜日を樂しく過すことに細心の御注意をお母様に願ふ次第である。

尙考へて見ると日曜日の無理ばかりではなく、すでに出かける前に少し故障のあるのを多忙にまぎれ、氣づかずに入て、健康